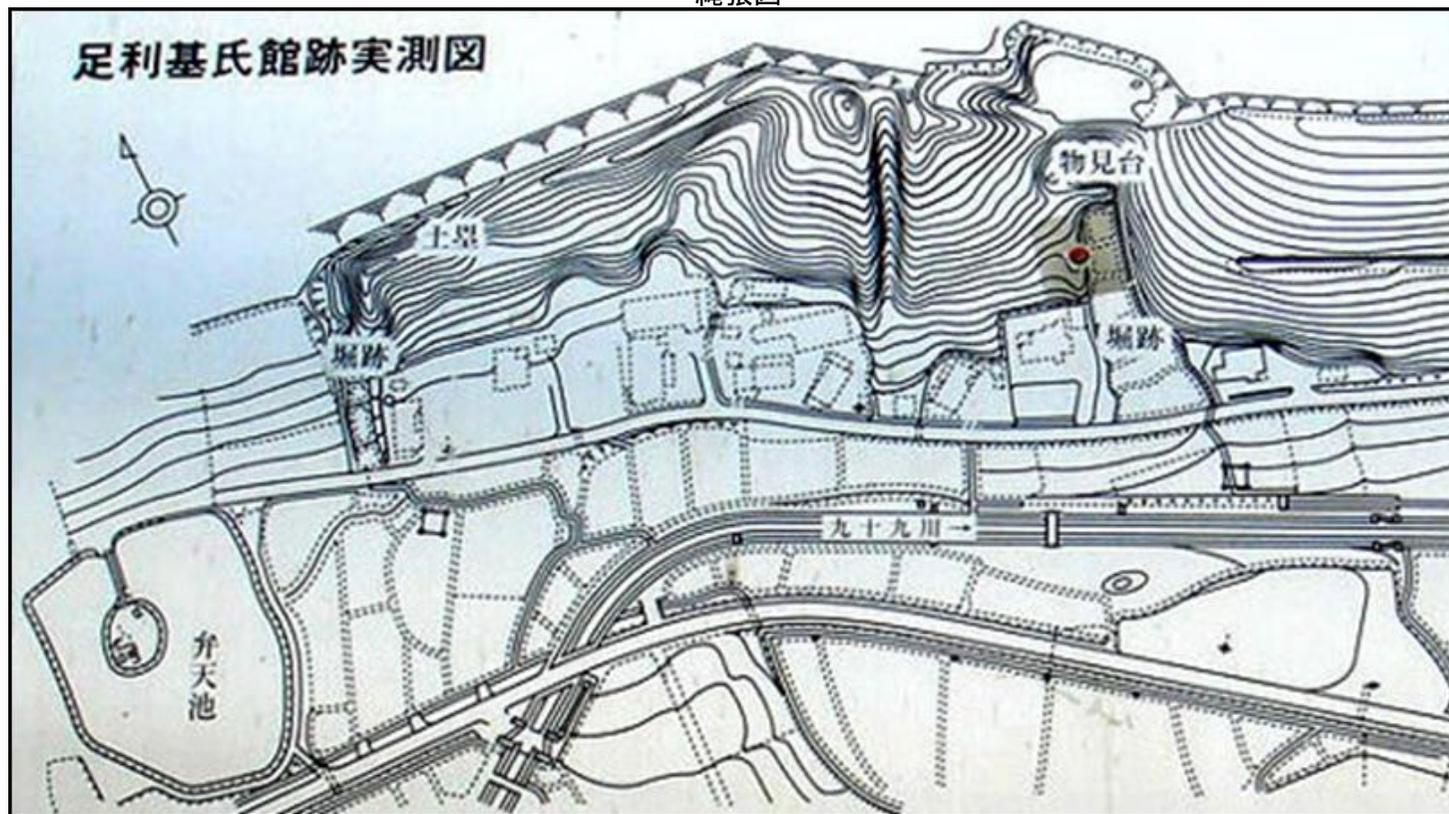


足利基氏館跡/附 苦林野古戰場跡(東松山市)

築城年代: 貞和5年(1349年)、築城者: 足利基氏

縄張図



↑
弁天沼

↑
堀跡①

↑
堀跡②

ここは西側の堀跡①



堀跡はこの先で右手に回り込んでいる



土塁を見たところ



反対側の東側に来ると標柱がある/「足利基氏の墓跡」と記されている



ここが堀跡②



奥へ進んでみる



説明板が立っている



東松山市指定文化財 足利基氏の塁跡

昭和四〇年八月一〇日指定

足利基氏は、鎌倉公方と呼ばれ、南北朝時代に活躍した武将で、

足利尊氏の次男として暦応三年（一三四〇）に生まれました。

館の跡は、高坂台地西側の斜地に立地し、九十九川に向かつて下り、南面が大きく開口しています。北と東西に土塁跡、東西に堀跡が残っています。館は堀を含めると東西一八〇m、南北八〇m前後の規模とみられ、北面中央部の東寄りが山側に突出した形となっています。このすぐ東側で北と東の土塁の交点には、物見台とみられる高まりがつくられています。

東と西側の土塁の外には、現在、水田となった水堀が往時の面影を伝えています。南面は後世に大きく変化していますが、九十九川と谷筋の湿地が外敵を防ぐ役割を果たしていたとみられます。

『新編武蔵風土記稿』にも記載されていますが、この館跡は足利基氏が貞治二・天平一八年（一三六三）に反乱をおこした、芳賀高貞（宇都宮氏の一族で下野国の豪族）と、いわゆる「岩殿山合戦」

を行った時に布陣した場所で、本陣がおかれた可能性が高いと思われます。

しかし、基氏は長期の滞在はせず、すぐに下野国に陣を進めています。そのためこの館は合戦の時に基氏が築いたものではなく、地元豪族が造った館を陣地として利用したものと思われます。

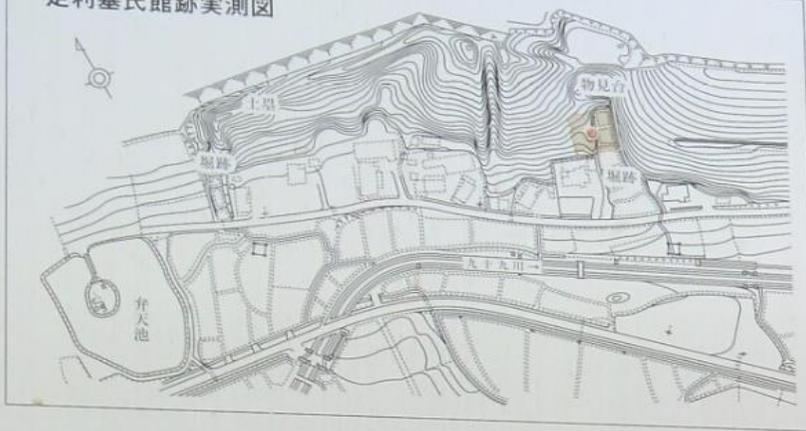
平成一五年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしましょう

この館跡は足利基氏が貞治2年・天平18年(1363年)に反乱を起こした、芳賀高貞(宇都宮氏の一族で下野国の豪族)と、いわゆる「岩殿山合戦」を行なった時に布陣した場所で、本陣が置かれた可能性が高いと記されている/また、元々は地元豪族が造った館を陣地として利用したものと記されているが、それは比企能員の館であったともされるようだ

足利基氏館跡実測図



物見台方向/この奥は高坂カントリークラブの敷地



この先は、ロープが張られ、立ち入り禁止となっている



さて、前方は足利基氏館跡の南西方向近くに所在する岩殿山正法寺(岩殿観音)のエリア



鐘楼が見える/鎌倉時代には、源頼朝の妻、北条政子の守り本尊として、源頼朝の庇護のもと比企能員が復興に尽力していると云う/この「岩殿山」のエリアで「岩殿山合戦」が行われたのであろうか



参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/380motouji/motouji.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/higasimatuyamasi.htm#motouji>

<https://ckk12850.exblog.jp/3261711/>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/ashikagamotouji-yakata/>

<https://blog.goo.ne.jp/hanako1033/e/95d304964898cfa3bf8592b2dbf3e560>

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/14a859eba322b3dcbf6320cf626a96bd>

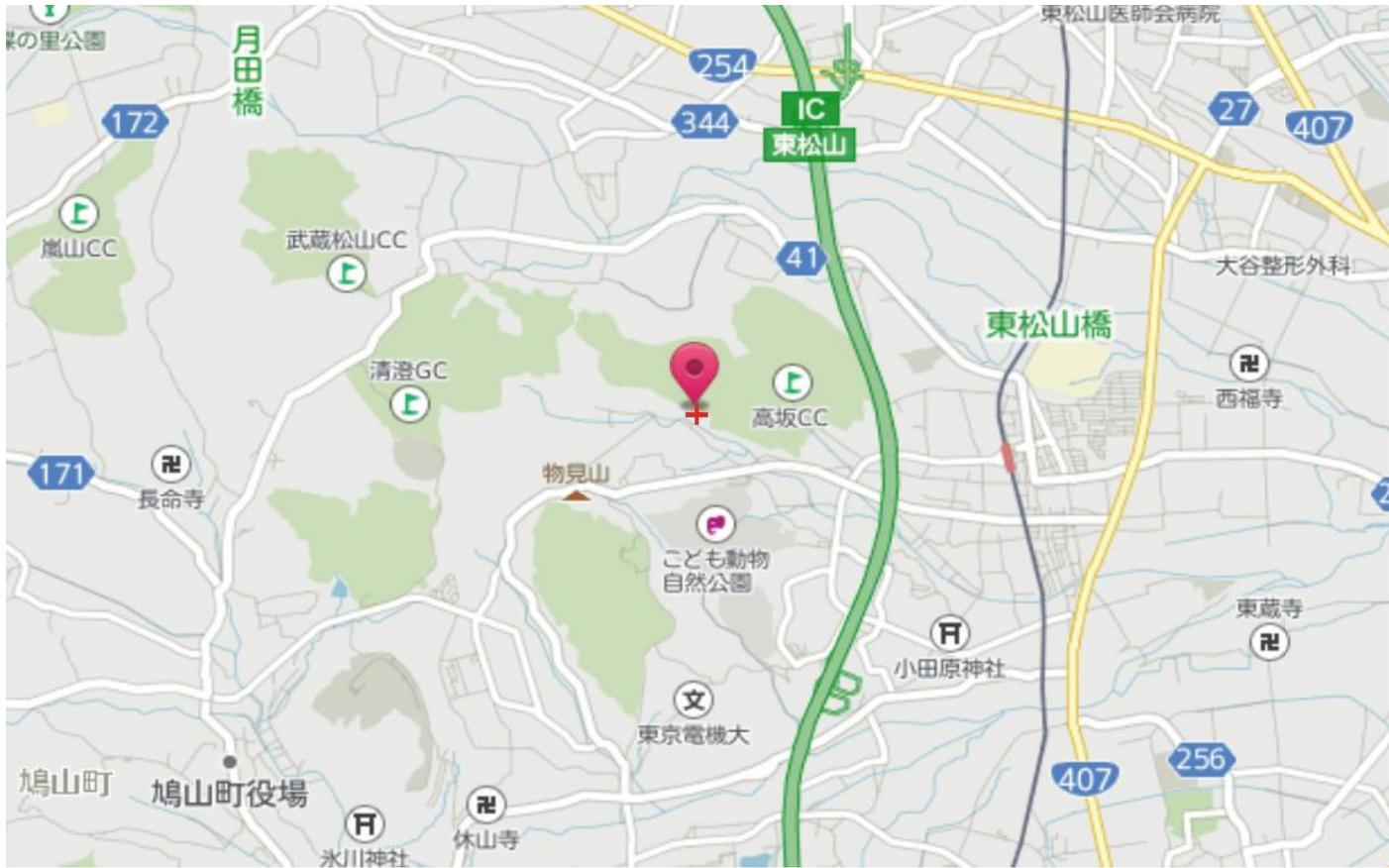
<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/asikagamotouziyakata.htm>

https://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/58678520.html?_ysp=6Laz5Yip5Z%2B65rCP6aSo6Leh

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~mononofu/asikagamotoujiyakata.html>

<https://joukan.exblog.jp/21977578/>

<http://www.kit.hi-ho.ne.jp/nagae/asikagasirui.html>



苦林野古戦場跡(入間郡毛呂山町)

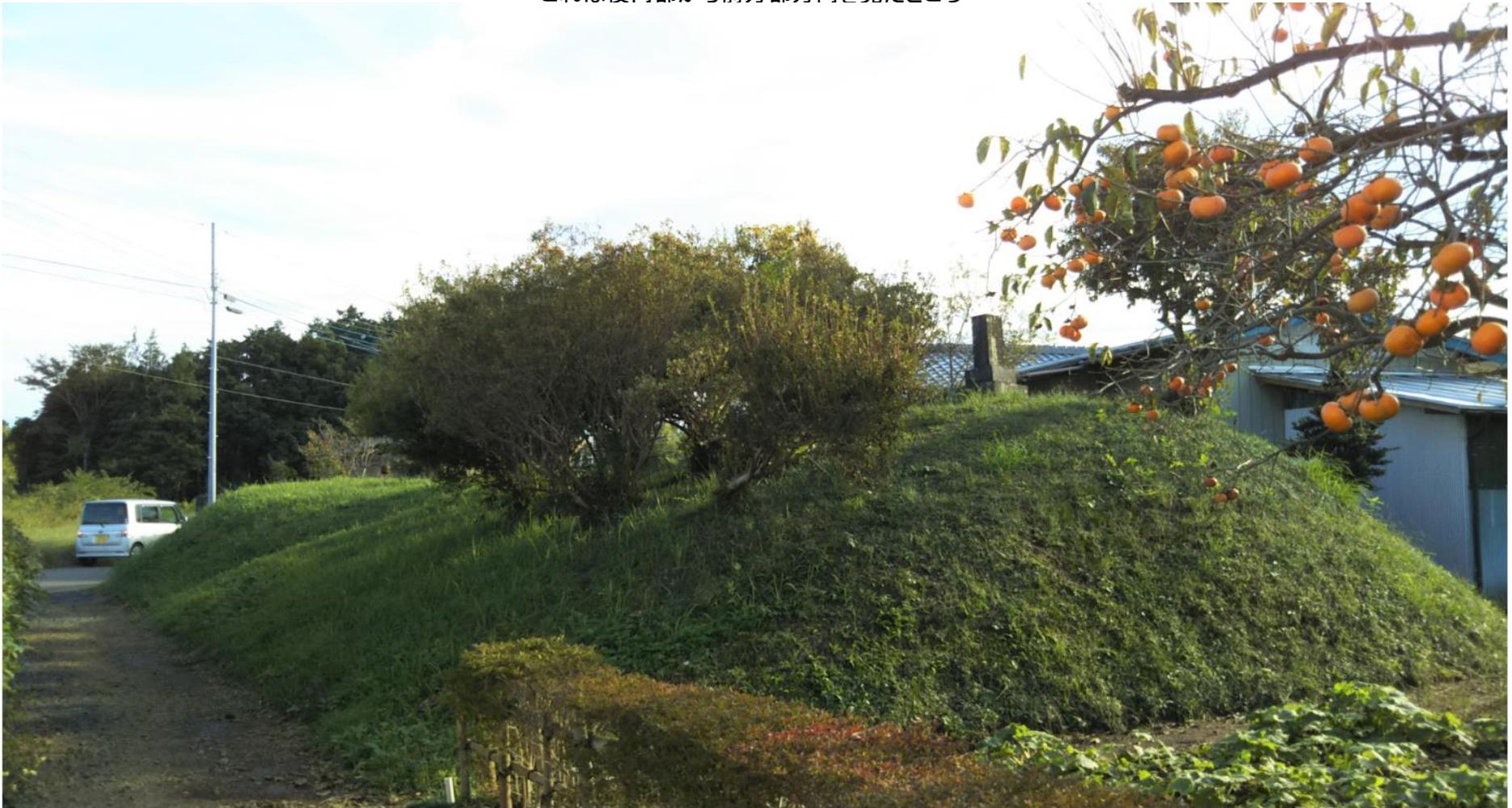
苦林野合戦は上記の「岩殿山合戦」とも言われるようで、この合戦に際し、足利基氏が築いたとされるのが足利基氏館跡(足利基氏の墓跡)である/足利基氏は、反旗を翻した芳賀高名入道禪可の命を受けた嫡男の芳賀高貞らを討伐するために、平一揆・白旗一揆らを引き連れて武蔵に着陣し、芳賀軍と合戦を行った/「太平記」には、これが武蔵岩殿山合戦と呼ばれる戦いで、苦林野はその主戦場であったと記載されている/この戦いの規模はそれほど大きくないが、中世関東の歴史の一つの転換点となった(この後、延々と続く公方と上杉氏とのいざごは応仁の乱に先立って関東を戦国時代へと導くのである)/この写真は、毛呂山町に所在する苦林野古戦場跡のエリア/手前に並ぶのは神明台の庚申塔・馬頭観音
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここは苦林野古戦場跡近くに所在する大類古墳群の大類1号墳(苦林古墳、観音塚古墳とも呼ばれる)/6世紀末～7世紀初頭築造の前方後円墳/手前が前方部、奥が後円部



これは後円部から前方部方向を見たところ



■ 墳頂に説明板と「苦林野古戦場之遺跡碑」/前方奥に「苦林野合戦供養塔」が見える



毛呂山町指定 記念物 史跡

昭和三十九年五月一日指定

苦林古墳

埼玉県指定旧跡

昭和三十六年九月一日指定

苦林野古戦場

毛呂山町指定

有形民俗文化財

平成二十七年三月十九日指定

苦林野合戦供養塔

越辺川右岸の毛呂山町川角から坂戸市塚原の台地上には、古墳が
一〇〇基以上分布し、苦林古墳群と呼ばれています。苦林古墳群は、
県内では行田市埼玉古墳群に次ぐ前方後円墳の密集地であり、苦林
古墳は、現存長約二・三mの古墳時代後期の小型前方後円墳です。

苦林古墳群一帯は、中世の頃から苦林野と呼ばれ、合戦の舞台と
なりました。貞治二年六月（一三六三・一説に貞治四年）、鎌倉公方足
利基氏の軍勢三千余騎と前越後守護職宇都宮氏綱の重臣芳賀禪可の
嫡子高貞、次男高家の軍勢八百余騎が苦林野で激突しました。

『太平記』の「小塚の上に打ち上りて…」とある小塚は苦林古墳とい
われています。

苦林古墳の上には、江戸時代の文化十年（一八一三）銘の千手観音
の石仏があります。背面には古戦場の由緒を刻み、両側面には六体
の仏を文字で表しています。浮彫の千手観音像を合わせた七体を日
を違えて順次本尊として祭ったと考えられる珍しい七夜待塔で、苦
林野合戦の戦死者供養のため、里人により建立されました。

平成二十九年三月

毛呂山町教育委員会

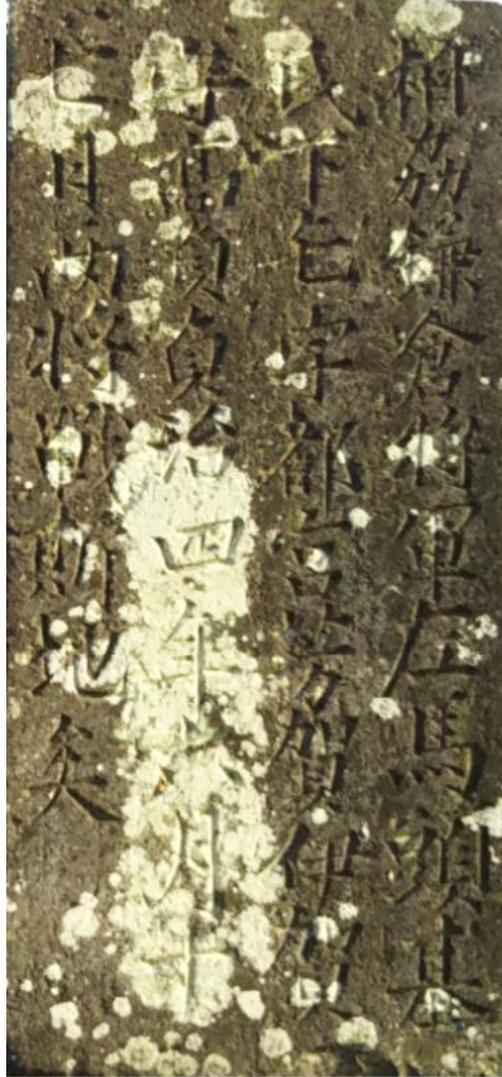
「太平記」には「小塚の上に打上る・・・」という記述がある/この絵は江戸時代の新編武蔵風土記稿に描かれた苦林野図で、前方後円墳の墳頂に石碑が見える/「村民の建し石碑かの長塚の上」にあり、正面に千手観音の像を刻し・・・この地に於いて戦えし由を彫る・・・とあり、この長塚は苦林古墳のことであり、その石碑は苦林野合戦供養塔であると言う/苦林古墳のほかにも多数の古墳が描かれている



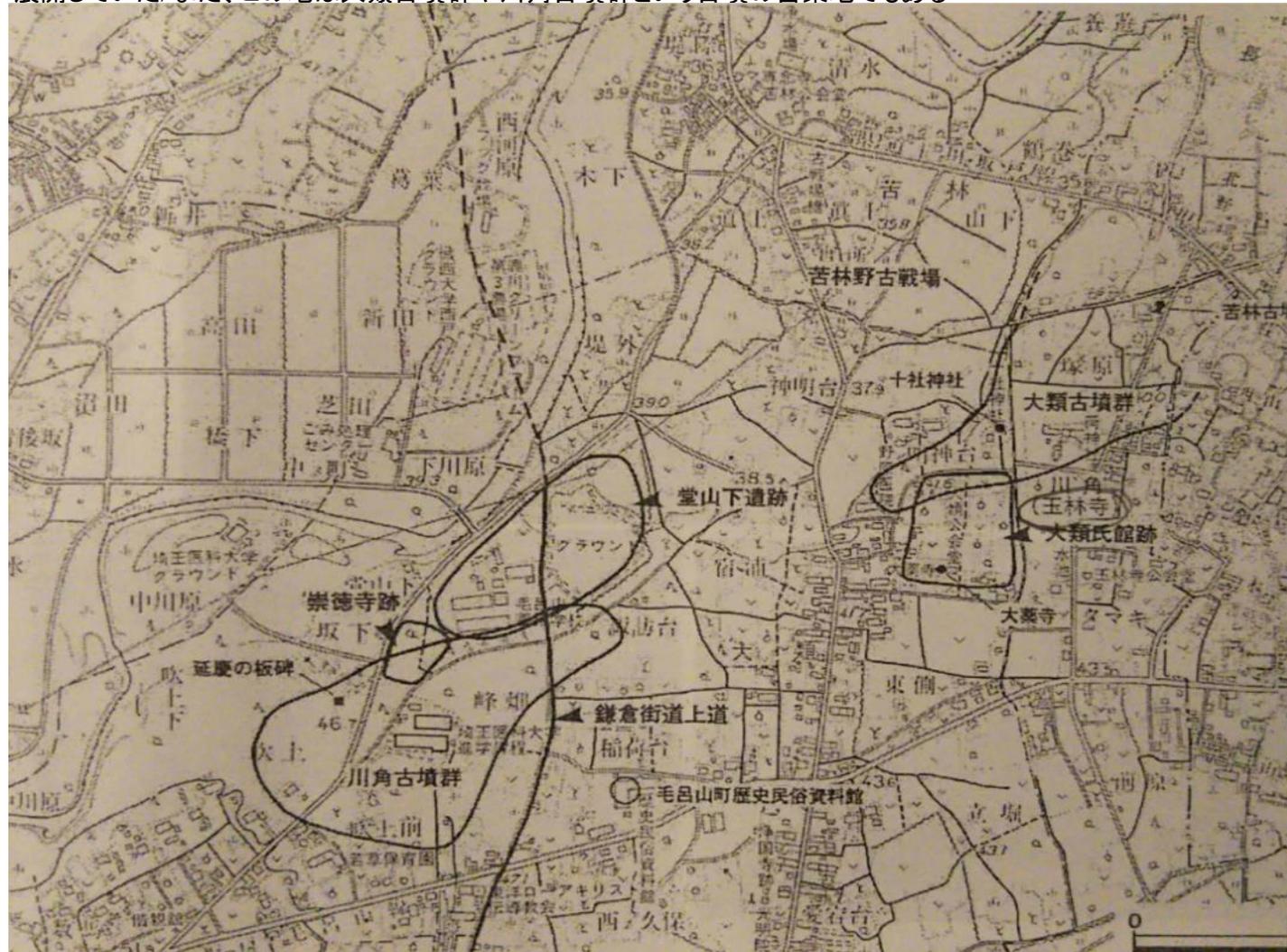
これが「苦林野合戦供養塔」/千手観音の像が刻まれている/伝承に基づいて、江戸時代に村民の手により造立されたようだ



背面には貞治4年(1365年)6月17日にこの地で、足利基氏と芳賀高貞ら両軍の戦いがあったことが刻まれている(貞治2年の間違いらしい/伝承だから・・・)



苦林野古戦場跡は中世の時代の鎌倉街道上道沿いに位置し、近くの越辺川の渡河地点には苦林宿(堂山下遺跡)が展開していた/また、この地は大類古墳群や川角古墳群という古墳の密集地でもある



赤丸が足利基氏館跡で、四角い赤の所が苦林野古戦場跡/足利基氏館跡近くの「岩殿山」のエリアでの合戦、苦林野での合戦と広い範囲にわたってせめぎ合いがあったのであろうか/地形的にみると足利基氏館跡から岩殿山正法寺(岩殿観音)のエリアは丘陵状になっていてアップダウンがきついので、合戦をするとなるとやはり平坦で広い苦林野が適していたと思われる/まだ鉄砲などの飛び道具が無い時代なので、「ヤアヤア、我こそは・・・」と名乗ってから戦うとなると、ここが良いスチュエーションになるようだ

